地域コミュニティ在り方検討会

【第２回】

令和８年８月25日
地域振興部 地域振興課

目　次

１　前回のふりかえり
（１）第1回検討会の意見の整理

２　検討の視点・テーマ

３　ワークショップの意見
（１）高崎地区
（２）横市地区

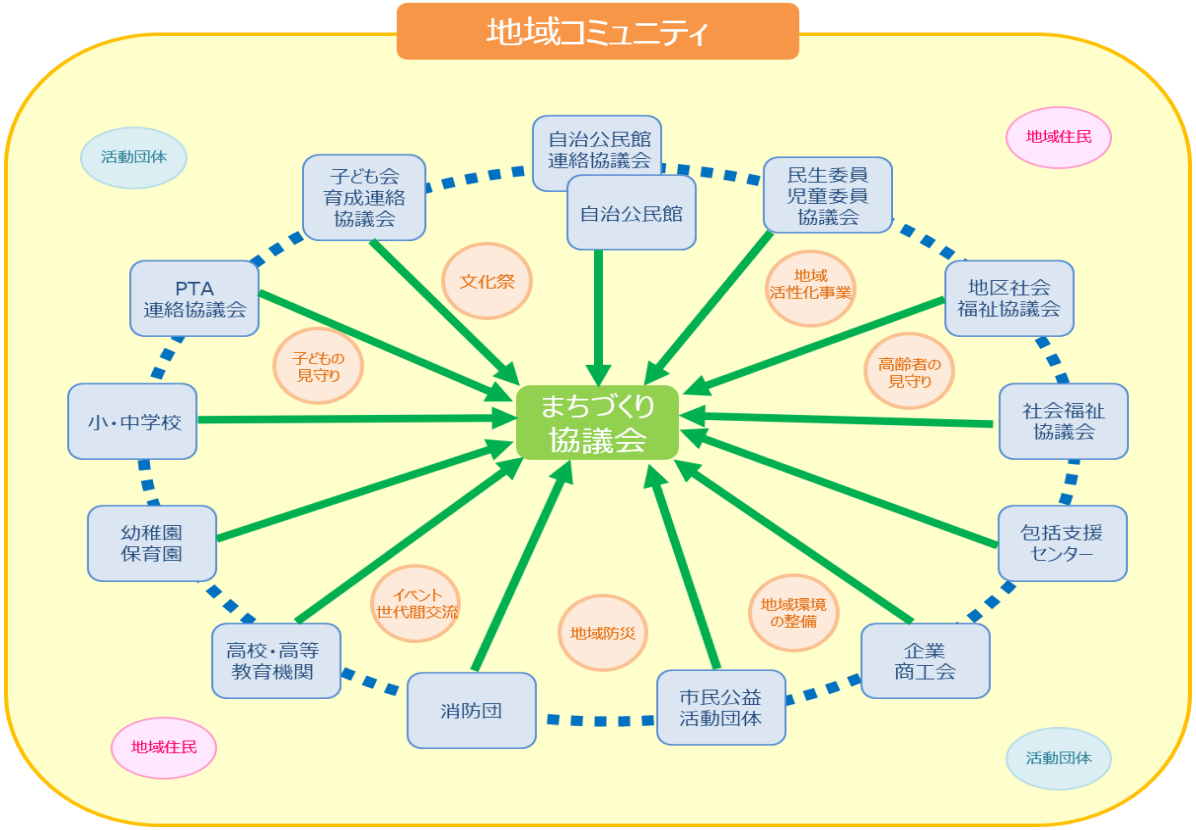
４　他自治体の取組事例等

５　今後のスケジュール

1　前回のふりかえり

（１）第1回検討会の意見の整理

■地域コミュニティの大きさ、サイズ感がわかりづらい
⇒学校区、単位の自治公民館、子ども会等と紐づいている「まちづくり協議会」をベースに検討していく。



○まちづくり協議会は、地域住民の生活圏である各中学校区を概ねの単位とし、市内15地区で設立

○自治公民館、民主団体、NPO、企業、学校、PTA、地域住民など、地域を取り巻く様々な人々によって構成

○行政から権限の移譲を受け、地域課題を地域自ら解決する市民の組織
（我がまち交付金：財源の移譲）

1　前回のふりかえり

（１）第1回検討会の意見の整理

【地域コミュニティの現状と課題】

○「なぜ地域にコミュニティが必要なのか」という認識の共有が必要

○自治公民館・子ども会など各種団体の活動に多様な課題が噴出

○地域コミュニティ未加入の高齢者が増加

○加入率が高くても高齢者増加や子どもの退会で活動が成り立たない地域が存在

○加入率の高低だけでは地域の実情を把握できない。

【防災・安全に関する課題】

○南海トラフ地震発生時に地域で支えられるか不安があり、自助・共助・公助のバランスが崩壊しつつある。

○限られた消防士・消防団の体制の中でいざというときの機能発揮が困難になる恐れがある。

○自助・共助・公助が機能するためには、行政、地域、家庭それぞれの関係性の見直しが必要

1　前回のふりかえり

（１）第1回検討会の意見の整理

【子ども・次世代育成の課題】

○活動中の子ども会は2地区のみとなり、空白地域が増加

○子ども会がなくなっても子どもの体験・学びのニーズは変わらない。

○子どもの体験機会を確保しないと地域の将来の担い手が育たない。

○多世代交流の減少が教育格差や郷土愛の希薄化につながる可能性がある。

2　検討の視点・テーマ

検討の３つの視点

①地域組織の連携と役割分担、②ゆるやかなつながり方、③必要な時に支え合えるしくみ

検討の３つのテーマ

1　地域の連携と役割分担の再構築

・自治公民館活動、コミュニティの重要性の伝達
・必要な行動のリストアップ

2　誰も取り残さない「ゆるやかなつながり」の環境づくり

・相互に理解し合う姿勢の醸成
・切れ目なく参加できる仕組みづくり

3　必要なときに支える個別具体的な仕組みの検討

・地域の実情や個人のニーズに応じた仕組みづくり
・子どもの頃からの関わりを通じて、地域のつながりや活動を学び、次の世代へ受け継ぐ
・保護者の協力のもと、子ども同士でリーダーシップを育む仕組みの構築

地域コミュニティの基本型

3　ワークショップの意見

（１）高崎地区

第１回：　７/19開催

○部活等で多忙な親子には夜間開催で意見を聴取し、子どもの企画を大人が支援する。

○魅力的な企画や柔軟な時間設定で参加のハードルを下げ、子どもから高齢者まで幅広い世代の交流を促す。

○加入減少が課題となる中、中学生が同年代で語り合える場を確保する。

○親子参加や保護者の特技を活かした行事を通じて、活動を継続する。

○館長・役員の負担をゼロベースで見直す。

○三世代交流を大切にし、若年層へのフレイル・認知症予防の講演により早期の気づきと進行遅延につなげる。

3　ワークショップの意見

（１）高崎地区

第２回：８/11開催

○観光客誘致や天文台・花火PR、ドーム施設整備で公共交通の縮減に対応する。

○大型商業施設の誘致や移動スーパー・ドローン配送で生活の不便を解消する。

○自治公民館による地域への周知により、空き家発生を抑える。

○中学生によるマッピングや行政要望で通学路の安全を確保する。

○産業団地や高崎モールの設置で飲食店・遊び場不足を解消する。

○楽しく捨てる工夫や回収アイデアにより、ごみの持ち帰り意識を醸成し、公園のごみ問題に対処する。

2　ワークショップの意見

（２）横市地区

第１回： 8/11開催

○未加入者も恩恵を受ける費用負担の不公平感　（ごみ出し、防犯灯など）

○メリットの見えにくさやPR不足による加入率低下

○子どもの居場所確保と現代的な企画・情報発信の必要性

○自治公民館任せにせず、全住民でインフラを支える仕組みと開放的な参加体制への移行

○高齢者の技術の伝承や多様な世代が交流する場の創設が必要

○若者が地域への理解を深めるためには、多様な世代が直接対話できる場が重要

○共働き世帯増加による行事参加者の固定化

４　他自治体の取組事例について

地域の連携と役割分担の再構築

地域全体で法人格取得（山形県川西町：吉島地区）

ＮＰＯ法人が地域づくりの推進母体となり、各種テーマごとに部会を設置

部会	**自治部会**	構成：自治会長会・防犯協会・商工会など 活動：自主防災組織、見守り隊、地域交流、防犯灯など
	環境衛生部会	構成：衛生組合長会、女性班長会など 活動：環境保全、緑地推進など
	福祉部会	構成：地区社協、民生委員、老人クラブ連合会など 活動：敬老会、学童保育、子育て支援など
	教育部会	構成：自治公民館長会、公民館専門部など 活動：生涯スポーツ、講習研修など

【出典】特定非営利活動法人
きらりよしじまネットワーク

４　他自治体の取組事例について

誰も取り残さない「ゆるやかなつながり」の環境づくり

「できる人」が「できるとき」に「できること」を行う
（茨城県取手市：新取手自治会）

ボランティアを中心とした自治会活動を実施

特徴	・ポスティングボランティアを活用することで役員が配布していた回覧板を廃止 ・９種類のボランティアで約100人が活動（2025.2月） （小学校見守り、ポスティング、資源回収、青パト、ミシン指導、秋祭り、会館清掃、水の公園、フード）

【出典】取手市HP ・広報

４　他自治体の取組事例について

誰も取り残さない「ゆるやかなつながり」の環境づくり

実行委員会形式によるイベント開催（兵庫県神戸市）

自治会役員による企画から、イベント単位で人を募る仕組みへ

特徴	・自治会の役員を敬遠する人でも、イベントの企画だけなら参加しやすい。 ・誰もが無理なく関われば、自然とつながりが生まれる。 ・「得意なことで貢献できる」等のメリットを感じることで、若い人の参加も期待できる。

【出典】神戸市HP

４　他自治体の取組事例について

必要なときに支える個別具体的な仕組みの検討

拠点機能の複合化（静岡県焼津市）

公民館を、生涯学習活動に加え、さまざまな目的や用途で利用可能とすることで、地域の拠点施設としての機能をより一層強化

背景	地域課題や住民ニーズの複雑多様化、地域の担い手不足、地域活動への参加者の減少など
成果	幅広い世代の住民や地域の団体、事業者が集い「つながり」・「支え合える」地域の拠点施設に再編

【出典】焼津市HP

○今後のスケジュール

日　程（案）	内　容	場　所
6月25日（木）15:00～ ☑済	第2回検討会	都城市役所 7階 大会議室
8月25日（火）15:00～ 【本日】	第2回検討会	妻ケ丘地区公民館
11月13日（金）15:00～	第3回検討会	妻ケ丘地区公民館（予定）
2月中旬	第4回検討会	未定
3月中旬	市長への報告	市役所4階秘書広報課前会議室

○参考（ワークショップ日程）

日　程（案）	内　容	場　所
7月19日（日）14:00～16:00 ☑済	高崎地区ワークショップ①	高崎地区公民館
8月11日（祝）10:00～12:00 ☑済	横市地区ワークショップ①	横市地区公民館
8月11日（祝）14:00～16:00 ☑済	高崎地区ワークショップ②	高崎地区公民館
9月22日（祝）10:00～12:00	横市地区ワークショップ②	横市地区公民館
9月22日（祝）14:00～16:00	高崎地区ワークショップ③	高崎地区公民館
11月14日（土）10:00～12:00	横市地区ワークショップ③	横市地区公民館
11月14日（土）14:00～16:00	高崎地区ワークショップ④	高崎地区公民館
未定	横市地区ワークショップ④	未定


都城
幸せ上々、みやこのじょう
日本一の肉と焼酎、とっておきの自然と伝統